●正副議長と議会運営委員長は、慣例で、一般質問を行わないこととしています

⇐質問者の発言の題目はこちら

一般質問を行った議員です(発言順)

9月1日
冨永純子　五間浩子　星野直美　西室真希　内田由香利　九鬼ともみ　森重博正　及川賢一

9月2日
玉正彩加　金子亜希子　立川寛之　日下部広志　村松徹　古里幸太郎　渡口禎

9月3日
石井宏和　森喜彦　船木翔平　綿林夕夏　岸田功典　鈴木勇次　長谷川順子

9月4日
小林秀司　久保井博美　鈴木玲奈　川村奈緒美　浜野正太　市川克宏　山本貴士

道路管理

豪雨時のアンダーパス さらなる対策を

問　**本市でも、7月の集中豪雨でアンダーパスが冠水し、車両が立ち往生する事故が発生したが、今後同様の事故を繰り返さないための対策は。**

答　車両の進入をより確実に防止するため、遮断機など物理的な進入防止対策の実施や、予防的な事前通行規制の検討など、監視体制の強化と併せて、道路利用者の安全確保に努めていく。


アンダーパス冠水時の車両の進入防止に向けたさらなる対策を

問　**アンダーパスへの監視カメラの設置状況は。**

答　過去の冠水履歴から、特に監視が必要となる1カ所に設置している。今後は、重点的な監視が必要となるアンダーパスを対象に、順次カメラの設置を進め、監視体制の強化を図っていく。



問　**車両が危険なアンダーパスに近づかないよう、事前にルート回避を促す対策が必要と考える。市公式LINEなどでリアルタイムにプッシュ通知を送る仕組みの構築を進めるべきと考えるが、市の見解は。**

答　リアルタイムのプッシュ通知は、道路利用者の安全確保や迅速な危険回避の観点から、有効な手法と考えている。現在、市ホームページで公開している、市内の道路・河川等の状況を確認できるシステム「Ri(リ)sK(スク)ma(マ)」の発展的な活用として検討していく。

平時における ドローンの活用は

問　**ドローンは、災害時だけではなく、経費的・技術的に有用な事前防災ツールであると考える。平時の業務においても活用しているとのことだが、具体的な活用方法は。**

答　ドローンの空撮技術向上のための研修を実施しているほか、斜面の補強工事の点検や、道路の事前状況調査などで活用している。また、業務委託でも、安全性等の観点から橋の点検で活用している。



治水対策

内水氾濫への取り組みは

問　**近年の集中豪雨により、下水道や水路の排水能力を超える内水氾濫が発生するなど、住宅浸水等の都市型水害のリスクは高まっていると考える。都が対策の目標とする降雨量を引き上げた中、本市も治水目標※1の見直しが必要ではないか。**

答　現時点で、目標降雨量の見直しには至っていないが、集中豪雨が頻発化し、降雨量が増加傾向にあるなど、気候変動リスクは認識している。今後は、公共施設や住宅への雨水貯留浸透施設の設置推進が重要と考えており、関係所管と連携し取り組んでいく。

問　**本市の降雨量が増加傾向にあることを踏まえ、流域全体で雨水を受け止める流域治水の視点が重要と考える。市内の各地域で雨水の流出を抑制するためには、市民一人ひとりの取り組みが必要なことから、水循環計画では、住宅でも導入しやすい雨庭※2の普及促進を位置付けている。市は、雨庭の普及にどのように取り組んでいるのか。**


富士森公園に設置した雨庭
雨庭について詳しくはこちら⇑

答　雨庭の認知度向上を図るため、環境フェスティバルで周知啓発を行ったほか、モデル地区の富士森公園と長池公園でワークショップを実施してきた。今年度は、別のモデル地区において、住宅への設置を意識した実践的な雨庭の設置を予定しており、住宅への導入が広がることを期待している。

※1本市は「水を治める」取り組みとして、時間60ミリメートル降雨での床上浸水ゼロを目標としている
※2雨水を一時的に貯めて地中へ浸透させる構造を持った空間のこと。下水道や水路等への雨水流出を遅らせることができる